

尾浦地区 里づくり計画書



尾浦地区は現在、元々少ない人口が更に減少、高齢化が進んでおり、独居老人も増え空き家も増えています。今、地区で何かを行わなければ、状況が好転することはないと考えられます。そこで尾浦地区を活性化するための計画を作成しました。

(1) 地区の現状

尾浦地区は巖原市街地から車で約10分の位置にあり、人口は47名と市内でも極めて小さな集落であります。しかし巖原市街地から一番近い海水浴場があり、バンガローやキャンプ場が設置された「青潮の里」としての観光施設を有しており海水浴シーズンには市内のファミリーや韓国旅行者など多くの利用者があります。

ただ、地区内には店舗もなく、バスの便が少ないこともあり、車も持っていない高齢者の買い物、病院通い等の点からすると不便な状況にあります。

また、跡取りの不在など、人口減少により空き家も増え、高齢化率も非常に高くなっています。

その為、地区内での交流も少なくなっており、活気にあふれているとはいえない状況です。

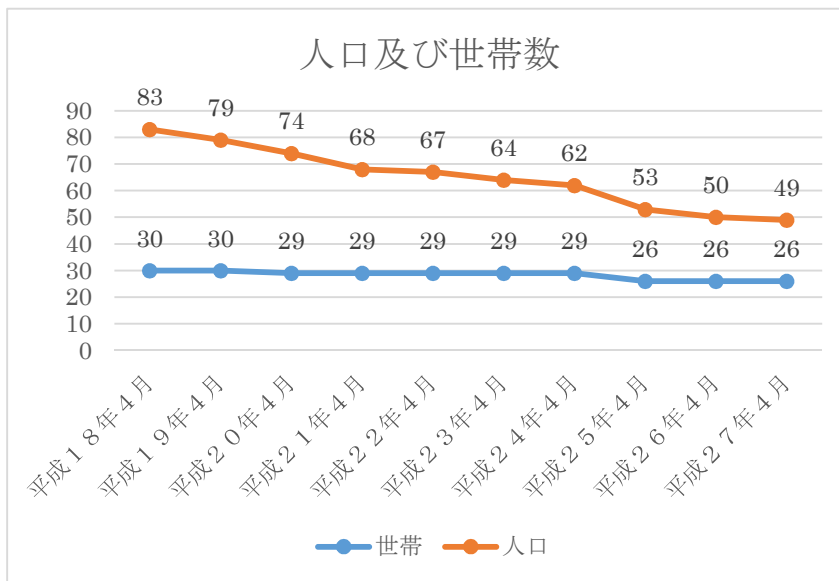


↑ 尾浦海水浴場

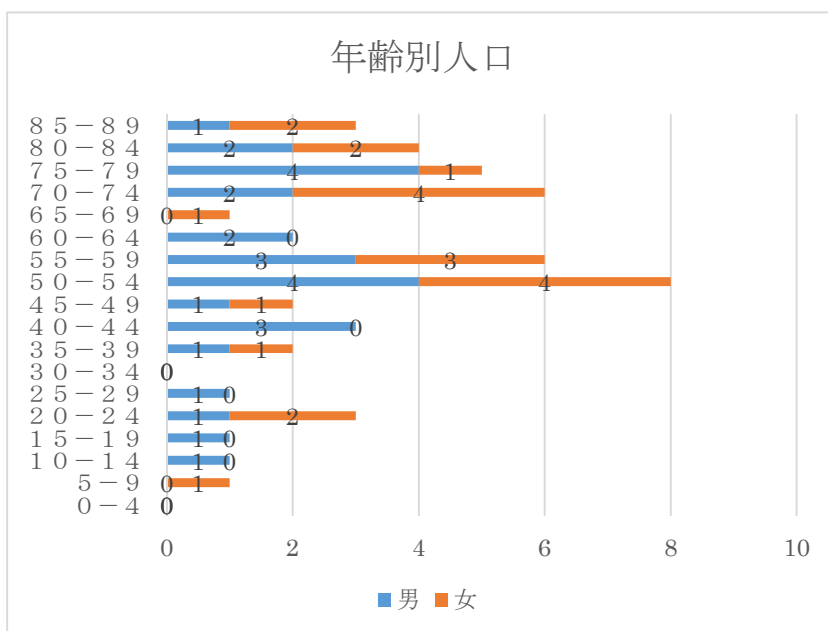


↑ 尾浦キャンプ場

(2) 地区の人口



平成18年から比較してみると、地区人口は平成27年4月現在で34名の減となっている。



また、年齢別人口を見ると高齢化率は38.8%となっており、高齢化がかなり進行している事を示している。

(3) 地区の役員・集会

区長・副区長・顧問

氏子総代・寺総代

農事組合・農協総代・森林組合総代

(4) 地区の行事

○火の神神社関係行事（旧暦）

3月18日	焼祭り
6月第1うまの日前日	夜宮
6月第1うまの日	やくま
9月28日	お出船
10月28日前日	夜宮
10月28日	入船祭
12月31日	神社清掃

○恵比寿神社

1月10日	十日恵比須
-------	-------

○寺関係（旧暦）

3月21日	弘法様
-------	-----

(5) 地区の魅力・資源

地区には自然豊かなキャンプ場と澄み切った海が広がる海水浴場が併設されています。

キャンプ場には6人用バンガローが3棟、貸出用テント、テントサイト、運動広場、炊事棟などがあります。

6月～9月に尾浦海水浴場は745名、尾浦キャンプ場2009名の利用がされています。島内外からも観光客を呼ぶ下地になると考えられます。

(6) 地区将来の目標

地区の現状で記載したとおり、現在の尾浦地区は高齢化が進んでおり人口も減少しています。

そこで、地区からの人との交流を盛んにすることにより、地域を活性化すること、地区の周りに海も山もあり自然が多いこと、集落の雰囲気等を考え「のんびり、自然にやさしい、人の和のある里づくり」を目標とし、地域活性化に取り組みたいと考えます。

(7)「のんびり、自然にやさしい、人の和のある里づくり」の実現

1. 近所づきあいの維持・復活を目指し、まとまりのある地区にします。
 - ・ゲートボール場等の地区内で憩いの場を作り、近所づきあいの維持・復活を図ります。
 - ・地域での行事（敬老会等）、を増やし、活気ある地域づくりを行います。
 - ・高齢者を孤立させないために、地域の住民で一人暮らしの家などの状況を確認する尾浦地区見守り隊を作ります。
 - ・家庭の生活必需品などをお互いに調達できるような仕組みを作ります。
 - ・出前講座の利用、スポーツ推進員によりスポーツ、文化における生涯学習の普及を積極的に行い、ともに学ぶことによってふれあいを深めます。

2. 施設、道路、空き地などの環境美化を行い、きれいな地区ににします。
 - ・観光客にアピールが出来るような、きれいな地区づくりを行います。
 - ・尾浦川の河川清掃を行います。
 - ・空き地を利用し、花いっぱい運動を行っていきます。
 - ・定例的に海岸の漂着ゴミを回収し、きれいな海水浴場にしていきます。また、その処理を市に依頼していきます。
 - ・漂着ゴミを利用し、作品を作ることによって観光客にアピールしていきます。

3. 海水浴場、キャンプ場などの施設を有効活用し、賑わいのある地域にします。
 - ・海水浴シーズンに地域、観光客を対象にしたイベントを海水浴場及び、「青潮の里」で行い、活性化を図ります。
 - ・海水浴シーズンにバスの増便、乗り合いタクシーなどにより高齢者の交通手段の利便性向上を市に対し要望していきます。
 - ・海水浴場で手軽なマリンスポーツを体験できる仕組みを検討します。
 - ・地区で採れた海産物などを「青潮の里」で販売するような仕組みを作ります。
 - ・他地区とも連携しそれぞれの地区の特産品を販売出来るような仕組みを作ります。